

都市における持続的可能な食品システムを目指す(オランダ)

背景

都市化の結果、都市住民は、自分たちが消費する食品の生産過程を知ることがなくなってしまった。国際化、低価格の国際輸送インフラ整備や集約農業技術の発達により、高収益で低価格の食品システム<sup>1</sup>が発達することとなった。このシステムにおいて、食品は大規模なスーパーマーケット・チェーンにより住民に提供されるが、生産の過程については、ほとんど情報がない。

こうしたシステムは、環境や社会に影響をもたらすこととなる。生産、加工、配達及び廃棄を含む食品システムが排出する二酸化炭素の量は、世界全体の排出量の 29 パーセントであり、世界全体のエネルギー需要に占める食品部門の割合は三分の一になる。しかも、消費を目的とした食品の三分の一が無駄となっている。高収益な作物のために使った肥料や殺虫剤は環境問題の一因となる。社会的に見れば、都市住民（特に低所得者）は、十分な果物や野菜を摂取せず、ますます加工商品やファストフードに頼ることになる。

都市住民の割合が増えれば増えるほど、現在の食品システムはその需要を満たすことができないおそれが出てくる。ヨーロッパの都市のいくつかでは、より持続可能な選択肢として地域で生産したものを地域で消費するシステムの検討を始めている。

**URBACT** : 都市における持続可能な食品

ヨーロッパの都市は、持続可能な食品戦略を通じて、こうした都市住民の抱える食品の問題に集中して取り組んでいる。**Sustainable Food in Urban Communities** (都市における持続可能な食品) は、欧州連合の **URBACT**<sup>2</sup> の計画の 1 つである。低炭素で資源を有効に活用した都市の食品システムを作るため、10 都市が、共同で効率的かつ持続的に問題を解決することを目的としたネットワークを作った<sup>3</sup>。この計画は 2012 年から 2015 年にかけて実施される。半年の準備段階が終了し、参加都市は 27 ヶ月の実施段階に入っている。

---

<sup>1</sup> 「食品システム」とは、生産、加工、配達、廃棄を含むある人口を支えるための食品に関する全ての過程やインフラである。

<sup>2</sup> **URBACT** は、広範な都市問題に関わっている欧州の都市間の意見交換を推進する欧州連合(EU)のプログラムである。29 カ国 500 都市がこのプログラムに参加しており、欧州連合の欧州地域開発基金 (**Regional Development Fund**) と加盟国により資金提供を得ている。なお、都市における持続的な食品に関する研究班がある。

<sup>3</sup> アメルスフォールト (オランダ)、アテネ (ギリシア)、ブリュッセル (ベルギー)、ブリストル (英国)、ヨーテボリ (スウェーデン)、リヨン (フランス)、メッシーナ (イタリア)、オスロ (ノルウェー)、オウレンセ (スペイン)、バスルイ (ローマニア)

最終的な評価は、2015年に予定されており、この計画は、成功する見通しであると考えられる。

計画には三つの分野がある：

- 1) 栽培する (Growing)
- 2) 楽しむ (Enjoying)
- 3) 配送する (Delivering)

栽培するという分野は、町の中心部かその周辺においていかにして作物の栽培するかに焦点を当てている。都市計画の戦略、放棄地の活用方法、土地の肥沃化、小スペースで作物を成長させるための新技術の開発、市民公園・公共広場・屋根・バルコニーなどを利用して個人が行う分散型の栽培を促すことなどである。

楽しむという分野は、都市の住民やレストラン経営者がいかにして持続可能な食品システムを積極的に受け入れてもらえるようにするかがテーマである。すなわち地元で作られた新鮮な食品を使ったり、食品廃棄物を減らすことを促進しようとしている。また、特に低所得者をはじめ、どうしたら地域社会の様々なグループにアクセスできるかということについても検討している。

配送するという分野では、食品配送に関わっている炭素排出量を削減する方法を調査研究している。例えば、地域における生産を促進することに加え、運送市場も関係者に対し持続可能な配達慣行を促進することや、持続可能なコミュニティー活動を支援することなどである。

三つの分野に加えて、三つの横断的な主要テーマがある。

- 1) ガバナンス・相乗効果・地域の問題
- 2) 社会的な包摂・雇用・地域経済
- 3) 二酸化炭素と資源の有効活用

計画の主な課題の概要をこれらの分野・テーマごとに整理したものが次の表である：

	ガバナンス・相乗効果・地域の課題	社会的な包摂・雇用・地域経済	CO <sup>2</sup> 削減・資源の有効利用
栽培する	<p>地方自治体はいかにして一貫した地域の食品システムの開発を支えるのか</p> <p>都市計画によりいかにして地域における栽培を支えることができるか</p>	<p>効果的なビジネスモデルの開発</p> <p>地域の雇用や経済にどのような影響を与えられるか</p> <p>様々な地域住民がいる中で、全ての参加をいかにして得るか</p>	<p>人口密集・増加地域においても栽培ができるような革新的な技術の開発</p> <p>土地や土壌をいかにして効率的に利用できるか</p> <p>炭素排出量を削減するための栽培方法の検討</p>
楽しむ	<p>都市において、いかにして持続可能な食品に対する需要を増やすか（レストラン・食堂・住民などの考え方や価値観を変えられるか）</p> <p>消費者団体の参加をいかにして得るか</p>	<p>持続可能な食品をいかにして手頃な値段にするか（特に低所得者のため）</p> <p>住民と食品との新たな関係</p> <p>持続可能な食品に関する政策と他の社会参加政策とをいかにして組み合わせるか</p>	<p>持続可能な食品システムをいかにしてつくり出すか</p> <p>旬の農産物の促進、食品廃棄物の削減、住民の食生活の改善</p> <p>自家栽培の促進</p>
配送する	<p>食品配達に関する政策と他の政策をいかにして組み合わせるか</p> <p>持続性をいかにして高めるか</p>	<p>いかにして実際の取り組みを確かなものとし、持続可能なビジネスにするか</p>	<p>二酸化炭素排出量を削減するため、現在の配達方法を調べた上で、改善する</p>

URBACTは2014年初頭に、各都市における進捗を記録した各分野の中間報告書を発行した。このレポートには、これまで各都市が経験してきたことを話し合ったテーマ別のワークショップの結果が記載されている。

ケース・スタディ：アメルスフォールト市（オランダ）

アメルスフォールト市は、オランダの中心部にあり、人口は約 15 万人で今なお増加している。同市は食品生産地である田園地帯に囲まれており、ワーヘニンゲン・フード・バレーという食品研究の中心地が市の東にある。それにもかかわらず、市内で消費される食品の大部分は地元の農作物ではなく、大手のスーパーマーケット・チェーンにより提供されている。

市役所は、持続可能な食品システムに住民が参加できる戦略、すなわちボトムアップ型でコミュニティに根差した取組に繋がる仕組みを作り上げ、提供した。

持続可能な食品に関する政策は、「持続可能なアメルスフォールト（Sustainable Amersfoort） 2010-2014」及び「アメルスフォールト・グリーン・シティ（Amersfoort Green City） 2004-2015」という 2 つの主要戦略に示されている。また、そのいずれもがコミュニティの先導的な取組への支援や官民協働を強調している。2012 年に、アメルスフォールト市は **Dutch Capital of Taste**（オランダの味の首都）であることを宣言して、こうしたコミュニティの先導的な取組を認定するとともに「味の首都」の旗印の下で様々な意識啓発を行った。

栽培する：アメルスフォールト市は、例えば公園などの公共スペースで野菜や果物が栽培できるように、市の条例を変えることにした。**Self Maintenance Contract Scheme**（自己管理契約計画）により、住民は緑地帯の区画の管理運営を申請できる。これまでに 150 件を超える契約があり、多くの住民がその土地を市民農園として使って野菜や果樹を育てることにしている。さらに都市は、市民に持続可能な食品システムの計画についてアドバイスをする「グリーン・ブローカー」という役職を新設した。

配送する：市は、配送の分野についても、市民参加型の取組を推進している。市の環境部門は、主要関係者の全て（運送会社、食品配送会社、レストラン経営者、持続可能な食品システムに取り組む非政府団体など）を準備会議に招待した。この会議の目的は、需要と供給の間をつなぐことであり、関係者が自ら主導的な取組をできるようにすることであった。この会議の成果として、様々な関係者が共同で取り組む計画が現在策定されつつある。

楽しむ：2007 年に、同市は、**The City is Looking for a Farmer**（農家募集中）という持続可能な食品やオーガニック食品に興味がある住民と地元の生産者を紹介する事業を導入した。この事業により、地元の農家やレストラン、会社、学校などの間に 140 もの良好な関係ができた。持続可能な食品システムに対する住民の関心の高まりに合わせ、市は、年

に4回に行われる **Echt Eten in de Eemstadt**（農家の市場）という啓発イベントを支援した。このイベントでは、移動型キッチンを使って、地元の農産物を使った料理のデモンストレーションもある。

しかも、都市にある学校では、**1000人以上の生徒が1平方メートルの小さな区画を自分で管理し、農家の支援により自分の野菜を生産することができる。**さらに、食育も都市の小学校で行われている。例えば、生徒が農家や製粉所を訪問し、自分でパンケーキを作るための原料を集める「パンケーキ旅行」というものもある。

## 結論

アメルスフォールト市は、様々な関係者が持続可能な食品システムづくりに参加できるように、市民参加型の政策（ボトムアップのアプローチ）を選択した。他の都市、例えばスウェーデンのヨーテボリ市では、もっとトップダウン型のアプローチを採用しており、地方自治体の食堂などにおいてできるだけ、地域の食材や持続可能な食品を使うこととしている。

**URBACT** の計画により、都市は、ボトムアップ型、トップダウン型どちらのやり方が最大限機能するのか分析することができ、長期的な視点で見て持続可能な食品システムを作り上げるためのアイデアや戦略をやりとりできるようになるだろう。